

【特別支援教育部研究構想図】

全校研究主題

自走する子の育成

特別支援教育部の現状

1. 今日の課題から

- ・「子ども自身の学び」を大切に、主体的な学習に取り組むことができるようにする。
- ・「協働的な学び」を通して、感じたことや思ったことを表現し、学習を深めていくことができるようにする。

2. 目の前の子どもの姿から

- ・活発で、積極的に活動に取り組む姿が見られる。
- ・自分の思いを表現することへの苦手さ、自分本位での思いの表出など、仲間と適切に表現し合うことに課題がある。

1年次の成果と課題

成果

- ・学年や学級を飛び越えた児童生徒同士のつながりを生み出すことができた。
- ・児童生徒の思いや願いを基に単元構成を工夫することで、必然性・切実感を引き出すことができた。
- ・児童生徒自身が自分の取組を振り返ったり、自分の思いや願いに立ち返ったりする姿を価値付けることで、自己の成長に気付き、自信をもつことができた。

課題

- ・生活単元学習での学びと他の学習場面とのつながりが不明瞭。
- ・自身の学びの状況や自分のよさについて正しく認識することや、他者からの意見を肯定的に受け止めることができるような指導・援助の工夫。

特別支援教育部の目指す姿

- 思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いも一緒に達成しようと活動したりする姿
- 自分や他者の思い、願いを伝え合い、よりよい解決方法を見付けることができる姿
- 達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさや集団の活動の良さを実感したりする姿

特別支援教育部の研究主題

願いをもち、自分を表現する児童生徒の育成 ～各教科等を合わせた指導を通して～

自走に必要な資質・能力 **発見力「よりよく生活するための、自己や他者を見いだす力」**

特別支援教育部の研究仮説

段階的・系統的に発見力を育むための各教科等を合わせた指導のカリキュラムデザインの工夫、必然性や切実感がもてるような自走するための学習環境の工夫、単位時間における児童生徒の発見力の見取りと、それを高めるための指導・援助を行うことで、児童生徒が願いや目標をもち、自分を表現できる力を育成することができるだろう。

特別支援教育部の研究内容

1. 発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫

- 義務教育学校の特色を生かした、学年間をつなぐ単元を設定する
- 発見力を段階的・系統的に育むことができるような単元配列をする

2. 自走するための学習環境の工夫

- 学習の見通しをもち、単元の学びに思いや願いをもって取り組むことができるような単元構成を工夫する
- 学びに向かうための必然性や切実感を抱くことができるような、課題設定や自己の振り返りの場の位置付けを行う

3. 自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫

- 題材、学級、学習場面に応じて、児童生徒の実態に即した動機類型化シートを作成する
- 動機類型化シートに基づいて児童生徒の単位時間内における実態を把握し、発見力を高めるための指導・援助を工夫する

【特別支援教育部】

願いをもち、自分を表現する児童生徒の育成

～各教科等を合わせた指導を通して～

平野和俊、山田乾太、長島ヒデキ、炭竈直希、梅村翔平

要約

全校研究主題にある“自走する子”を特別支援教育部としては3つの姿として捉え、その実現に向けて実践を行っている。特別支援教育部の目指す3つの姿は、「思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いも一緒に達成しようと活動したりする姿」、「自分や他者の思い、願いを伝え合い、よりよい解決方法を見付けることができる姿」、「達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさや集団での活動のよさを実感したりする姿」である。

今年度の研究実践では、自走するために必要な資質・能力である発見力を育むための、カリキュラムデザインをしたり、単元、単位時間内で、児童生徒が必然性や切実感をもって課題解決や自己の振り返りを行うことができるような学習環境を設定したり、発見力動機類型化シートを基に児童生徒の実態把握及び発見力を高めるための指導・援助を行ったりした。その結果、児童生徒は、自分の思いを具現しようと、自分の思いを相手に伝えたり、伝え方を工夫したりするなど、自分を表現しようとする姿が多くみられるようになった。しかし、児童生徒の思いや願いが多様であり、個々の実態に合わせた支援が不十分な単位時間もあった。今後の実践では、個々の実態把握をより十分に行之、個々の実態にあった支援を一単位時間ごとに充実できるようにしていきたい。

【キーワード】 自走する子、発見力、教科等を合わせた指導、カリキュラムデザイン、自分を表現

1. はじめに

特別支援教育部では、子どもたちが自立と社会参加に向けて必要な力を身に付けることができるように、教育活動を行っている。学校生活を通して、子どもたちがこの先の将来を、豊かに生活していくための力を育むために、保護者や関係諸機関とも連携を図りながら、支援体制を整え、支援している。

特別支援教育部では、特別支援学級に在籍する児童生徒が、将来の自立に向けて必要な力を高め、豊かな生活をつくり出そうとする姿が、本校の研究主題である、“自走する子”の姿につながっていくと考えている。そのため、特別支援学級の児童生徒が自走する姿を、より具体的な姿として捉え直し、その姿を具現できるように実践を進めている。

2. 主題設定の理由と研究主題

(1) 今日の課題から

障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するために、令和8年6月に行われた新学習指導要領に向けた特別支援教育WGの取りまとめ（案）では、特別支援学級に期待される学びのイメージが示された。その中には、「子ども自身の学び」や「特別支援学級内外の協働的な学び」などのキーワードが示されている。子どもたちが、自立や社会参加に向けて、主体的に学習に取り組むために、子どもの発達段階は踏まえつつも、教師が多くのもので与えるのではなく、特別支援教育WGで示された「子ども自身の学び」を大切にしていきたい。子どもたちが自ら学ぶためには、活動（学習）への「願い」

をもち、学びをより自分事にする必要があると考える。また、自分の「願い」を実現していく中で、自分の「願い」を周りにいる他者に伝え、力を合わせるが必要となる場面があることも多分に想定される。そのため、「協働的な学び」を通して、感じたことや思ったことを表現し、学習を深めていくことが、自立や社会参加に向かっていくと考えている。

（２）目の前の子どもの姿から

１～６年生の児童は、活発で、ダンスや鬼ごっこなど全身運動を好む児童が多い。そのような活動を取り入れた学習では、積極的に活動する児童の姿が見られる。また、昼休みには互いに遊びに誘い、自然と一緒に遊ぶ姿が見られる。

７～９年生の生徒は、穏やかで、落ち着いて学校生活を営んでいる。また、作業学習での製品づくりにやりがいを感じたり、こだわりのをもって取り組んだり、強い願いや思いをもっている姿も見られる。

しかし、どの児童生徒も、興味のない活動や見通しが明確でない活動へ取り組む様子は、前向きとは言えない。いかに興味を抱くことができる活動にできるか、いかに活動への思いや願いを抱かせるか、いかに見通しをもって活動に取り組むことができる導入を作れるかが大切であると考えます。

また、自分の思いを表現することが苦手であったり、相手のことを考えず思いを表現したりする児童生徒もいる。仲間と適切に表現し合える姿も、様々な活動の中で育んでいきたいと考える。

（３）１年次の成果と課題から

研究内容１では、義務教育学校である特徴を生かし、１～９年生やⅠ・Ⅱ・Ⅲ部の部ごとなど、各学年・学級を意図的につないだカリキュラムデザインを行うことができ、様々な活動を通して、学年や学級を飛び越えた児童生徒同士のつながりを生み出すことができ

た。学習場面で生み出した児童生徒同士のつながりは、学校での日常の生活の姿にも変化を及ぼした。後期課程の生徒が、休み時間に前期課程の児童のところまで足を運び、一緒に遊ぶことを楽しむ姿や、相手を意識した声のかけ方で関わろうとする姿が見られるようになってきた。

しかし、生活単元学習の年間指導計画だけでは、後期課程で行われている作業学習とのつながりが分かりづらいという指摘がされた。生活単元学習での学びがどのように他の学習場面に生かされているのかという点で不明瞭であったことが課題として残った。そのため、生活単元学習だけでなく、他の各教科等を合わせた指導についても年間指導計画に位置付け、そのつながりを示す必要がある。

研究内容２では、自己評価・他者（相互）評価の場を適切に位置付け、自身の学びの状況や自分のよさに気付くことができるようにしたことで、目的をもって学びに向かう姿を引き出すことができた。また、児童生徒が、自己評価・他者（相互）評価を通して、次の学習活動への思いや願いを新たにしたときには、到達目標を再確認した上で、活動内容の見直しをしたり、新たな振り返りの場を位置付けたりと、児童生徒の思考に沿って、単元構成を柔軟に変更した。そうすることで、活動へのさらなる必然性や切実感が引き出され、意欲的に活動に取り組む児童生徒の姿につながった。

だが、一部の児童生徒は振り返りの場において、教師からの価値付けや他者からの肯定的な評価があっても自己評価を低くしてしまい、活動への意欲を減衰させてしまう姿が見られた。自身の学びの状況や自分のよさについて正しく認識することや、他者からの意見を肯定的に受け止め自分自身を見つめ直すことに困難さがあるため、そのような児童生徒に対する指導・援助について課題があると考え

えている。

研究内容3では、各学習活動の中で、児童生徒が自分の取組を振り返ったり、自分の思いや願いがどのようなものだったか立ち返ったりする姿を捉え、即時評価や、振り返りの場での価値付けなどの指導・援助の工夫を行った。そうすることで、児童生徒が、自己の考えが明確になったり、自己の成長に気付いたりして、自分に自信をもつことや、次時への意欲をもつことができるようになってきた。

(4) 研究主題

2-(1)、(2)、(3)から、研究主題を「願いをもち、自分を表現する子の育成」、副題を「各教科等を合わせた指導を通して」と設定した。

3. 目指す姿と発見力

特別支援教育部では、全校研究主題に掲げる“自走する子”を、3つの目指す姿として捉えた。

特別支援教育部の目指す姿

- 思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いも一緒に達成しようと活動したりする姿
- 自分や他者の思い、願いを伝え合い、よりよい解決方法を見付けることができる姿
- 達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさや集団の活動のよさを実感したりする姿

また、全校研究より、自走を勢いづける力を「発見力」とし、この力を育むことで自走する子の育成がよりうながされるのではないかと考えた。具体的には、特別支援教育部における発見力を「よりよく生活するための、自己や他者を見いだす力」と捉え、「願いをもち、自分を表現する子」の育成を目指すこととした。

4. 研究仮説

段階的・系統的に発見力を育むための各教科等を合わせた指導のカリキュラムデザインの工夫、必然性や切実感がもてるような、自走するための学習環境の工夫、単位時間における児童生徒の発見力の見取りと、それを高めるための指導・援助を行うことで、児童生徒が思いや願いをもち、自分を表現できる力を育成することが可能であると考えられる。

5. 研究内容

(1) 研究内容1 発見力を育むための、カリキュラムデザインの工夫

以下の2点の視点を基に、各教科等を合わせた指導のカリキュラムデザインを行った。
○義務教育学校である特性を生かして、学年間をつなぐ単元を設定すること

○発見力を段階的・系統的に育むことができるような単元配列をすること

特別支援教育部では、発見力を「よりよく生活するための、自己や他者を見いだす力」と捉えている。

そこで、年間指導計画には、各単元で重点的に発見する『自己』または『他者』を、明記することにした。

以上をもとに、1～9年生の、各教科等を合わせた指導年間指導計画を作成した。(別紙1)

本校は、5月下旬に1年生から9年生までの全校児童生徒で体育的行事の学校祭を実施する。プログラムの中には特別支援学級の1年生から9年生の児童生徒が取り組む競技がある。そこで、特別支援学級の1年生から9年生が関わり合って学ぶ単元を、生活単元学習として設定した。教師は、育みたい発見力や目指す姿を明確にし、どの場面でのように手立てをうつかを考え、実践した。

表1は、各学年の目指す姿と育みたい発見力をまとめた表である。(表1)

本単元では、上級生ほど、より他者（下級生）へ関わるができる姿を目指している。そのため単元導入では、下級生との関わり方について考える時間を設定し、学級での振り返りでは、下級生との関わりという視点で振り返りを位置付けた。生徒からは、「9年生（最高学年）として、みんなが困らないように声を掛けて助けてあげたい。」「先輩として、1～6年生に優しく接して、一緒に競技をやり切りたい。」と他者を意識した発言をしたり、「ここで待つよ。と声を掛けることができた。」「1年生の走るスピードに合わせて走るように気を付けた。」と他者を意識した行動ができたことについて振り返ったりする姿が見られた。このように、7～9年生は他者の発見に重点を置いた単元としている。対して、1～6年生は、自己の発見に重点を置いた単元としている。上級生や教師が関わる中で他者の存在についても発見していくが、まずは児童自身がどのような思いをもって参加するか、準備や練習に参加する中でどんなことを頑張るか、目標づくりを大切にしたい。そのようにして、個人目標を設定し、活動に意欲的に参加する姿を目指した。準備の時間では、競技で使用する競技物を積極的に作る姿が見られた。練習の時間では、自分の走順を理解し、順番を守って競技に参加する姿が見られた。振り返りでは、「ちゃんとできた。楽しかった。」と競技に参加することができたことに満足感を感じている児童の姿が見られた。また、「白団のみんなでいっぱい応援できた。」と、他者の発見をして振り返る姿も見られた。

「学校祭（体育的行事）に向けて」の実践より

	目指す姿	育みたい 発見力
9年生	最高学年として、下級生の思いや願いを踏まえて、みんなで達成したい目標や自己の目標をつくり、目標達成に向けた声掛けや行動をする姿。	・ 自己の思いや願い ・ 下級生の思いや願い
8年生	9年生の話を聞いたり、下級生の様子を見たりしながら、自己の目標をつくり、目標達成に向けて、声を掛けたり手伝ったりする姿。	・ 自己の思いや願い ・ 下級生の思いや願い
7年生	上級生を見習いながら、下級生に対して優しく接し、準備や練習に取り組む姿。	・ 自己の思いや願い ・ 下級生への関心
5・6年生	上級生と一緒に活動する中で、自分の役割に気付き、準備や練習に取り組む姿。	・ 自己の思いや願い ・ 上級生への関心
3・4年生	自分の思いや願いをもって、4組の仲間と関わりながら準備や練習に取り組む姿。	・ 自己の思いや願い ・ 他者との関わり
1・2年生	4組の仲間や先生と関わりながら準備や練習に取り組む姿。	・ 自己の思いや願い ・ 他者の存在

表1 生活単元学習「学校祭に向けて（体育的行事）」における各学年の目指す姿と育みたい発見力

（２）研究内容２ 自走するための学習環境の工夫

児童生徒が自走することができるように、「～したい。」「～してみよう。」「私たちの生活に必要な。」「○○な姿になりたいな。」など、児童生徒が単元の学びに思いや願いをもつことを大切にしている。

そこで、学習の見通しをもって単位時間や単元での学びに取り組んだり、必然性や切実感をもって課題解決や自己の振り返りを行ったりすることができるような学習環境の工夫を行う。

単元の導入では、自分たちの生活や学習の経験、身近な人物や事象をもとに、思いや願いを抱くことができるようにした。経験は家庭のアンケート調査や過去の学習経験の写真や動画を基に想起する。この「経験」を大切にして単元を構想することで、「やってみたことがある。」「そういえば、」というような見通しをもつことができると考えている。アンケートをとることで身近な人物の思いも感じることができる。自分の生活に関わる事象を扱うことで、「お家の人はどのようにしているのかな。」「いつも身近にあるもの（こと）だけど、どうやっているのかな。」などの疑問をもち、必然性や切実感をもちやすいと考えている。このような児童生徒の思いや願いが表れるように、視点を提示して振り返りを行う中で、教師が児童生徒の思いや願いを見取り、次の単元に生かし、主体的な学びが継続するようにする。こういった学びを蓄積していくことで、自走する姿になると考えている。

7年4組「夏野菜で調理実習をしよう」では、次のように学習環境を設定した。

はじめに、4月から大切に育ててきた夏野菜をこれまでに家庭に持ち帰っており、保護者に調理をしてもらって食べた経験から、自分でも作ってみたいという思いを

もたせる場を位置付けた。計画・買い出し・調理という一連の流れを単元として構成し、「自分でもできる」という思いを抱ける単元を仕組んだ。

次に、買い出しの経験を積むために、実際に店舗へ行き、必要な視点で買い出しができる場を設定した。

また、保護者と連携して、家庭での姿を把握し、一人一人の支援につなげた。

学習環境を意図的に設定することで、生徒たちはどの食材を選ぶのか、自分なりの視点で考えることができ、家庭での経験につなげたいという思いを抱く姿につながった。

7年4組の実践より

（３）研究内容３ 自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫

題材、学級（又は個）、学習場面に応じて、児童生徒の実態に即した動機類型化シートを作成している。学級（又は個）に対して、発見力を見取る場面を設定し、発見力の質を高めるために、動機類型化シートを基にした見取りと、個の実態・状況に合わせた指導・援助を行っている。

具体的には、協働する場を意図的に仕組んだり、その物事や行動の価値を伝えたりすることで、児童生徒の視野が広がり、よりよい選択をする姿を生み出すことである。以下に、実践例を示す。

5・6年4組「4組夏祭りをひらこう」では、子どもたちの思いから、盆踊りをするのが、夏祭りのプログラムの一つに決まった。夏祭りに関わるイラストや動画を見て、巧技台を並べ、櫓の土台をつくることになった。巧技台は、児童一人で運ぶことがなんとかできるほどの大きさと重さのため、二人で協力することで、容易に運

ぶことができる。始めは一人で運んでいた児童も、次第に誰かと一緒に運ぶ姿が見られた。活動の中で、発語がない児童が、一人で巧技台を運ぶことが難しく、教師に助けを求めてきていた。その助けを求める動機には、「難しいから学校生活で一番身近な大人である教師と一緒にできれば安心だ」というものであったのではないかと推察することができた。自分から他者に働きかけて、協働しようとする姿であることを見取りながら、その対象を学級の仲間へと向け、「仲間を頼ることで様々なことに取り組むことができる。」という動機にせまるため、教師はその児童に、学級の仲間に助けを求めるための身振りを例示し、模倣するよう促した。そうすることで仲間と一緒に活動することができ、さらにもう一つの巧技台を運ぶ際に、仲間事前に働きかける姿につながった。

5・6年4組の実践より

このように、動機類型化シートを用いることで、単元における発見力を高めるために、準備の段階で仲間と協働する場を設けることや、児童生徒がどのような気持ちで学びを進めることがよいのかを考えたり、そのために教師ができる手立て（価値付け、模倣、声掛け、写真や動画などの視覚的資料等）を考えたりすることができる。目指す発見力が明確だからこそ、より効果的な指導・援助をすることができると考えている。

6. 成果と課題

カリキュラムデザインを工夫し、学年間をつなぐ単元を設定することで、児童生徒が、自分の思いを相手に伝えるための伝え方を新たに獲得したり工夫したりすることができた。

学習環境を工夫し、児童生徒が単元の学び

に思いや願いをもって取り組むことができるようにすることで、活動を通して得られたものや深めた考えをもとに、自分のこれからの生活をよりよいものにしようと意欲を見せる姿を実現することができてきた。

動機類型化シートを基にして個々の状態を見取り、その状態に合わせて指導・援助をすることで、児童生徒自身がさらに学びを進めたり、深めたりすることができた。

しかし、児童生徒の思いや願いが多様であり、その思いや願いを伝える相手、場面が限定的である時間もあったため、個々の実態に合わせた支援が不十分な単位時間もあったと感じる。今後の実践では、個々の実態把握をより十分に行い、個々の実態にあった支援を一単位時間ごとに充実できるようにしていきたい。教師は常に、その子なりの自走とは何かを考え、子どもたち一人一人が自走する姿を表出できるようにしていきたい。

<参考・引用文献>

- ・岐阜大学教育学部附属小中学校『令和7年度中間研究会（一年次）』 2025.
- ・中央教育審議会『特別支援教育ワーキンググループとりまとめ(案)』, 文部科学省, 2026.
https://www.mext.go.jp/content/20260730-mxt_tokubetu01-000051327_001.pdf
(2026/8/3 最終閲覧)
- ・文部科学省『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示』 2017.

岐阜大学教育学部附属小中学校

特別支援学級 教科等を合わせた指導年間指導計画

特別支援教育部の目指す姿

○思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いも一緒に達成しようと活動したりする姿

○自分や他者の思い、願いを伝え合い、よりよい解決方法を見付けたりすることができる姿

○達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさや集団の活動のよさを実感したりする姿

9年生	学校祭（体育的行事）に向けて（11） ☆4組種目を学年が楽しめるよう、全員の思いを大切に活動することができる。 ・国語（振り返り文書）・美術（競技物の制作）・体育（走る活動）・特別活動（交流活動）・自立活動（買物の仕方・調理） 他者	夏野菜調理をしよう（13） ☆調理して食べるまでの一連の流れを自分で行うことができる。 ・国語（話の聞き方・伝え方）・社会（産業）・家庭（買物の仕方・調理） 自己と他者	4組宿泊研修に向けて（12） ☆高学年として4組全体の目標と自らの目標の達成に向けて取り組むことができる。 ・国語（振り返り文書）・社会（集団生活）・道徳（よりよい集団生活の充実、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	自立した生活と未来へ（20） ☆自立した生活とは何かを考える活動を通して、社会のまきまりを守って生活する態度や、自身や社会のよりよい将来について考えることができる。 ・国語（インタビュー）・美術（表現物作成）・家庭（社会生活）・特別活動（交流活動）・自立活動（コミュニケーションの基礎能力） 自己と他者	相手が分かりやすいと思える伝え方をしよう（6） ☆どのような伝えれば、分かりやすいかを考え、行動することができる。 ・国語（説明する文章）・道徳（よりよい学校生活、集団生活の充実）・社会（交流活動）・自立活動（買物の受取と表明） 他者	心を受け継ぐ会に向けて（10） ☆これまで頑張ったことを振り返り、どのようなことを8・9年生に伝えたいか考え、伝えることができる。 ・国語（説明する文章）・美術（図解資料作り）・特別活動（交流活動）・自立活動（コミュニケーションの基礎能力） 自己	○思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いも一緒に達成しようと活動したりする姿 ○自分や他者の思い、願いを伝え合い、よりよい解決方法を見付けたりすることができる姿 ○達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさや集団の活動のよさを実感したりする姿					
8年生	学校祭（体育的行事）に向けて（10） ☆4組種目の成功に向けて、下級生に優しく話しながら準備や本番に取り組むことができる。 ・国語（振り返り文書）・美術（競技物の制作）・体育（競技）・特別活動（交流活動）・自立活動（コミュニケーションの基礎能力） 他者	ミニストップ利用者の声から考える製品づくり（18） ☆ミニストップ利用者へのアンケートを通して、自分たちが気付かなかった製品のよさや改善点に気付く。これからの製品づくりに生かすことができる。 ・国語（質問・インタビュー・メモ）・算数（データの活用・表・グラフ）・美術（POP作り）・道徳（勤労・感謝）・自立活動（物販経験や自己表現） 他者	4組宿泊研修に向けて（12） ☆4組全体の目標と自らの目標の達成に向けて取り組むことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（よりよい集団生活の充実、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	4組宿泊研修に向けて（12） ☆4組全体の目標と自らの目標の達成に向けて取り組むことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	附属マーケットのお客様に喜んでもらえる製品づくり（15） ☆附属マーケットの準備や練習を通して、お客様によっていただいたお礼や感謝の気持ちが伝わるように工夫し、お客様に喜んでいただけることができる。 ・国語（説明する文章）・数学（金銭のやりとり）・美術（能力が伝わるデザインを考える）・道徳（勤労・感謝）・自立活動（お客様に合わせて伝えよう・協力して楽しもう） 自己	心を受け継ぐ会に向けて（12） ☆下級生に対して、後期課程の生活や自分たちの思いを分かりやすく伝えることができる。 ・国語（相手の分かりやすさを伝えよう）・美術（思い出を表現しよう）・特別活動（みんなで協力して会を作ろう）・自立活動（自分の思いを伝えよう、相手を意識して話そう） 自己	○思いや願いをもち、その実現・達成に向けて意欲的に活動したり、他者の思いや願いを感じて活動したりする姿 ○自分や他者の思い、願いを聞き合い、よりよい解決方法を見付けたりすることができる姿 ○達成感や充実感、自分のよさや成長を実感したり、他者のよさを感じたりする姿					
7年生	学校祭（体育的行事）に向けて（10） ☆4組種目の成功に向けて、下級生に優しく話しながら準備や本番に取り組むことができる。 ・国語（振り返り文書）・美術（競技物の制作）・体育（競技）・特別活動（交流活動）・自立活動（コミュニケーションの基礎能力） 他者	夏野菜調理をしよう（13） ☆調理して食べるまでの一連の流れを自分で行うことができる。 ・国語（話の聞き方・伝え方）・社会（産業）・家庭（買物の仕方・調理） 自己	受注製品を心をこめて作ろう（15） ☆お客様から依頼される作業製品を通して、「お客様のために」よりよいものを作ろうとする気持ちをもてることができる。 ・国語（話の聞き方・伝え方）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	4組宿泊研修に向けて（12） ☆4組全体の目標と自らの目標の達成に向けて取り組むことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	秋野菜調理をしよう（13） ☆調理して食べるまでの一連の流れを夏以上に自分で行うことができる。 ・国語（話の聞き方・伝え方）・社会（産業）・家庭（買物の仕方・調理） 自己	附属マーケット（15） ☆商品がお客様に届く喜びを感じたり、お客様に喜んでいただけることを実感することができる。 ・国語（説明する文章）・数学（金銭のやりとり）・道徳（勤労・感謝） 他者	心を受け継ぐ会に向けて（12） ☆下級生に対して、後期課程の生活や自分たちの思いを分かりやすく伝えることができる。 ・国語（説明する文章）・美術（伝えたいものをデザイン）・特別活動（紙面に書く）・自立活動（相手に合わせたコミュニケーション） 自己	○自分の思いや願いを実現・達成するために、意欲的に活動する姿 ○自分の思いや願いのよりよい伝え方を考えたり、相手の思いや願いを聞いたりすることができる姿 ○自分や他者が取り組んできたことを振り返り、自分のよさや成長を実感する姿				
5・6年生	学校祭（体育的行事）に向けて（7） ☆4組種目の準備や練習を通して、競技のルールや自分の役割について理解することができる。 ・国語（話し合い）・図画工作（競技物の制作）・体育（ゲームの展開）・道徳（規則の尊重） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	4組夏まつりをひらこう（12） ☆夏祭りの遊びや、夏祭りの会場を準備し、そこへ前期課程4組の仲間を招待し一緒に遊ぶことを通じて、前期課程4組の仲間との関係を深め、夏祭りを楽しむことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長） ・図画工作（絵や立休、工作に表す活動）・道徳（友情、信頼） ・自立活動（人間関係の形成） 他者	4組宿泊研修に向けて（7） ☆自分の目標の達成に向けて取り組むことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長） ・図画工作（絵や立休、工作に表す活動）・道徳（友情、信頼） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	4組秋まつりをひらこう（24） ☆秋祭りの遊びや、秋祭りの会場を準備し、そこへ前期課程4組の仲間を招待し一緒に遊ぶことを通じて、前期課程4組の仲間との関係を深め、秋祭りを楽しむことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長） ・図画工作（絵や立休、工作に表す活動）・道徳（友情、信頼） ・自立活動（人間関係の形成） 他者	ふぞくマーケットで買い物しよう（3） ☆ふぞくマーケットでの買い物を通じて、後期課程4組の仲間が製品に込めた思いや願いに気付くことができる。 ・国語（説明する文章）・算数（お金のやりとり）・道徳（個性の伸長、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 他者	4組冬まつりをひらこう（15） ☆秋祭りの遊びや、秋祭りの会場を準備し、そこへ前期課程4組の仲間を招待し一緒に遊ぶことを通じて、前期課程4組の仲間との関係を深め、秋祭りを楽しむことができる。 ・国語（めあてと振り返り）・社会（公共物の利用の仕方）・道徳（個性の伸長） ・図画工作（絵や立休、工作に表す活動）・道徳（友情、信頼） ・自立活動（人間関係の形成） 他者	心を受け継ぐ会に向けて（7） ☆前期課程のリーダーとして1年間取り組んできたことを振り返り、前期課程4組の仲間、これまでの頑張りを伝えることができる。 ・国語（話し方、振り返り）・図画工作（資料作り）・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 自己	○自分の思いを実現するために、様々な対象に自分から関わって活動する姿 ○自分の思いや願いのよりよい伝え方を考えたり、相手の思いを聞いたりすることができる姿 ○自分が「取り組んできたことを振り返り、自分のよさや成長を感じる姿				
3・4年生	学校祭（体育的行事）に向けて（7） ☆4組種目の準備や練習を通して、競技のルールを理解したり、4組種目に意欲をもって参加することができる。 ・国語（話し合い）・図画工作（競技物の制作）・体育（ゲームの展開）・道徳（規則の尊重） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	夏野菜を味わおう（10） ☆畑で育てている夏野菜を使った料理について知り、その料理の調理の一部体験したりすることを通して、味わった野菜のよさに気付いたり、調理の手順を理解したりすることができる。 ・理科（植物の生長）・生活（食事、集団内の役割）・道徳（個性の伸長） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	秋野菜を味わおう（10） ☆畑で育てている秋野菜を使った料理について知り、その料理の調理の一部体験したりすることを通して、味わった野菜のよさに気付いたり、調理の手順を理解したりすることができる。 ・理科（植物の生長）・生活（食事、集団内の役割）・道徳（個性の伸長） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	ふぞくマーケットで買い物しよう（3） ☆ふぞくマーケットでの買い物を通じて、後期課程4組の仲間が製品に込めた思いや願いに気付くことができる。 ・国語（説明する文章）・算数（お金のやりとり）・道徳（個性の伸長、友情、信頼） ・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 自己	冬野菜を味わおう（10） ☆畑で育てている冬野菜を使った料理について知り、その料理の調理の一部体験したりすることを通して、味わった野菜のよさに気付いたり、調理の手順を理解したりすることができる。 ・理科（植物の生長）・生活（食事、集団内の役割）・道徳（個性の伸長） ・自立活動（人間関係の形成） 他者	心を受け継ぐ会に向けて（7） ☆1年のリーダーとして1年間取り組んできたことを振り返り、1年間の自己や集団の活動を振り返ることができる。 ・国語（話し方、振り返り）・図画工作（資料作り）・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 自己	○自分の思いを実現するために、対象に関わろうとする姿 ○自分の思いを伝えることができる姿 ○自分が「取り組んできたことから、自分の成長を感じる姿					
1・2年生	学校ってどんなところ？（7） ☆学校生活や、学校で行うことを知り、自分の生活リズムを身に付けることができる。 ・国語（聞き方）・自立活動（健康の保持）・生活科（周辺の環境） 自己	学校祭（体育的行事）に向けて（7） ☆4組種目の準備や練習を通して、競技のルールが分かり、楽しく参加することができる。 ・国語（聞き方）・図画工作（競技物の制作）・体育（ゲームの展開）・道徳（規則の尊重） ・自立活動（人間関係の形成） 自己	素材遊び（12） ☆素材の性質を身近なものから、自分の思いを表現に伝えることができる。 ・国語（聞き方）・図画工作（制作）・自立活動（人間関係の形成） 自己	やってみようピタゴラスワールド（8） ☆遊びを通して、自分の思いを表現や仲間と言葉またはジェスチャーで伝えることができる。 ・国語（話し方、聞き方）・算数（数、数と活動）・図画工作（制作）・自立活動（人間関係の形成） 自己	ふぞくマーケットで買い物しよう（3） ☆買い物の一連の流れが分かり、買い物を楽しくすることができる。 ・国語（話し方、聞き方）・算数（お金のやりとり）・道徳（個性の伸長） ・自立活動（環境の形成） 自己	思い出いっぱいわくわく広場（12） ☆1年間の思い出を模した道具で遊ぶことを通じて、1年間の自己や集団の活動を振り返ることができる。 ・国語（話し方、聞き方）・社会（集団生活）・図画工作（プログラム作り、飾り付け） ・自立活動（人間関係の形成） 他者	心を受け継ぐ会に向けて（7） ☆1年間の振り返り、自分や仲間や学年がどんなことを経験するともにも自己の成長を感じることができる。 ・国語（話し方、振り返り）・図画工作（資料作り）・特別活動（交流活動）・自立活動（人間関係の形成） 自己	○自分の思いをもって、楽しく対象に関わる姿 ○自分の思いを伝えようとする姿 ○自分が「取り組んできたことをやり切って、達成感を感じる姿				
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度末に目指す姿

【公開Ⅰ】1・2年4組 遊びの指導 学習指導案

北舎1階 遊戯室：山田 乾太

1 単元名 「やってみよう！ピタゴラワールド」

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元では、NHKの番組を再現した遊び場を設定し、展開していく。本学級の児童は、NHKの番組を、学校や家庭でよく視聴している。児童の興味関心が非常に高い題材であるため、自発的に遊びようとする姿が予想できる。単元を通して、自分の思いや願いを言葉または行動で他者へ表出すること、何度もチャレンジして根気よく取り組もうとする態度、進んで他者と関わろうとする態度を育てたい。

(2) 児童について

1年生3名、2年生3名の男子6名の学級である。6名ともNHKの番組を、学校や家庭でよく視聴しており、興味・関心が非常に高く、「やってみよう」とよく口に出している。2年生児童Aは、これまでの遊びの経験から、創造的に遊びを生み出すことができ、休み時間には教室にあるものを使ってボール転がし装置を作る姿が見られる。しかし、一度の失敗であきらめてしまい途中で投げ出してしまうことが多い。また、自分の思いを他者に伝えることが苦手で、一人遊びをしていることが多い。1年生児童Bは、好きなものや、やりたいことはあるものの、それを相手に伝えたり、表現したりすることに課題がある。自己決定することに不安感が強く、行動する前に大人の目を気にしたり、確認したりすることが多い。また、仲間がのびのびと遊んでいる中、少し離れたところから様子を見ていたり、輪の中になかなか入ろうとしなかったりする姿がよく見られる。以上の、自分の思いや思いの表出に課題のある児童2名を抽出児童として設定した。

(3) 指導について

本時の課題遊びでは、児童の興味・関心の高いNHKのボール転がし装置のゴールを協同して制作する活動を行う。他者と共にゴールを作ることを通して、成功した時の達成感や、仲間と喜び合う充実感を味わうことで、進んで仲間と関わろうとする態度を育てたい。また、自由遊びにおいては、これまでの遊びの様子を動画、写真で紹介することで、遊びを自ら選択し、意欲的に遊びに向かうことができるようにする。また、振り返りの場面では、遊んでいる姿の動画や写真を提示することで、本時の自分の姿を振り返りやすくする。

3 研究に関わって

(1) 研究内容1「発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫」について

9年間のカリキュラムデザインの中で、1・2年4組は自己を表現しながらどのように他者の存在を認知していくかを課題としている。まずは、とことん自分の思いを表出させ、自分のやりたいこと、好きなことに没頭させる。その中で、学習、遊びを仲間と共に共有していくことで、児童の中に他者への意識が生まれ、自ら関わろうとすることを願っている。そのために、児童の興味関心にあった題材選び、遊具選びを行っている。

(2) 研究内容2「自走するための学習環境の工夫」について

毎時間、導入場面で遊ぶ様子の動画を視聴することで、遊びたいものの具体的なイメージと活動への見通しをもち、意欲を高める。

個人の思いをとことん表現しながら遊びに没頭できる「自由遊び」の時間と、決められたルール・環境の中で仲間とともに楽しむ「課題遊び」の時間を単位時間内に設けることで、並行遊び、共同遊びの経験を積む環境を与える。また、「自由遊び」の時には、多様な児童の思いを引き出す「運動遊び」「感覚遊び」「操作遊び」「イメージ遊び」と幅広い遊びの場を設けることで、興味関心が異なる児童も、自分の好きな遊びを見つけて、夢中になって遊びに向かえるようにする。

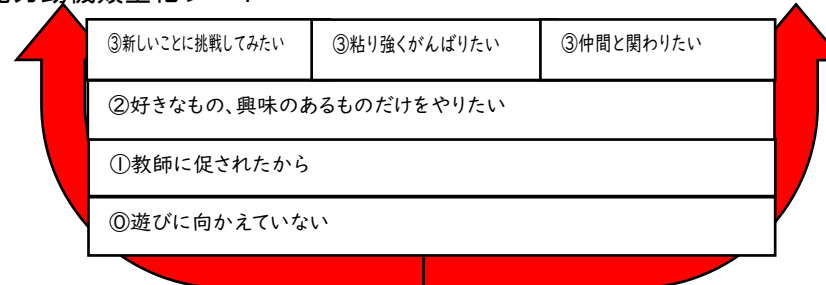
(3) 研究内容3「自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫」について

本時では、A児は粘り強くがんばりたいと思いをもって遊びに向かうこと、B児は自ら遊びを選択し、自分の思いを教師へ表出して遊びに向かうことをねらいとしている。

4 本時の自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

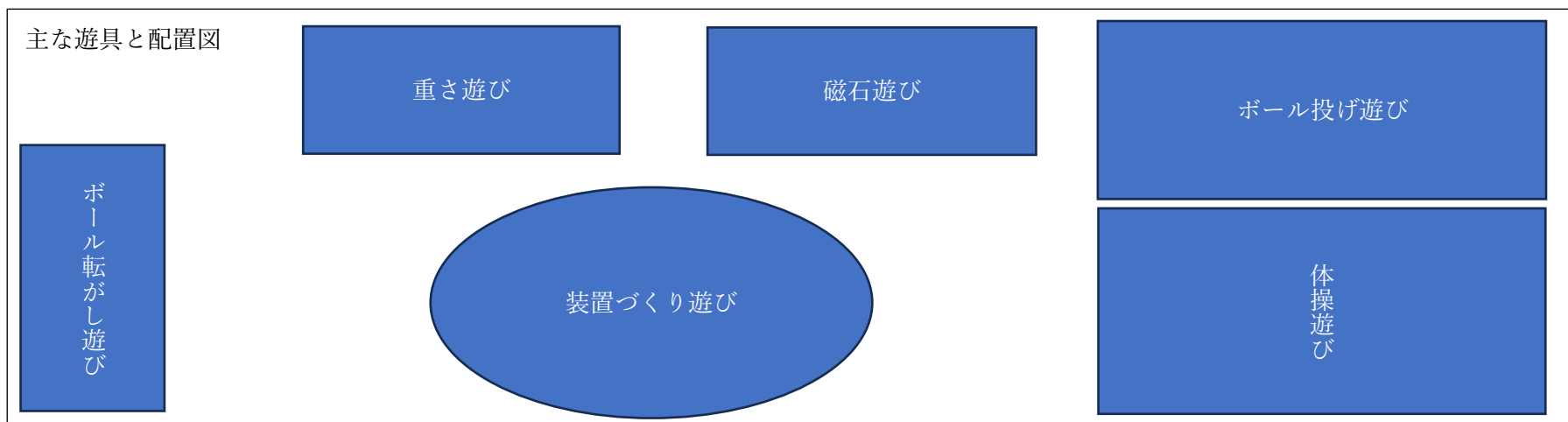
表出する場面	自由遊びの場面
表出する行動	遊びを選択し、遊びに向かう姿

発見力動機類型化シート



4 指導計画

題材で育む資質・能力					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度		
①道具の準備・片付け・整理整頓ができる。 ②遊びのルールを理解し、ルールを守ることができる。 ③自分の思いを言葉またはジェスチャーで相手に伝えることができる。 ④素材の特徴を理解して遊ぶことができる。		①遊びを自ら創造することができる。 ③素材の違いや特徴を生かして遊ぶことができる。 ④自ら物事を選択することができる。	①失敗してもあきらめず根気よく何度も挑戦しようとする ことができる。 ②他者と楽しみながら、遊びを創り出そうとすることができ る。 ③進んで他者に関わろうとすることができる。		
時	学習のねらいと主な学習活動		知識及び技能	思考力、判断力 表現力等	主体的に学習に 取り組む態度
① ②	オリエンテーション・自由遊び ・遊びのテーマと遊具、約束を確認し、見通しを持つ。 ・遊具を使って、創造的な遊びを作り出す。		知①（行動観察）	思①（行動観察） 思②（行動観察） 思③（行動観察）	主①（行動観察） 主②（行動観察） 主③（行動観察）
③	自由遊び 課題遊び 【ボール投げ遊び】 ・ポイントの書いた的にボールを投げて点数を競って遊ぶ。		知①（行動観察） 知②（行動観察） 知③（行動観察） 知④（行動観察）		
④	自由遊び 課題遊び 【磁石遊び】 ・磁石を使って砂鉄を動かして、仲間の砂鉄と合体したり、磁石同士が反発しあったりするのを楽しむ。				
⑤	自由遊び 課題遊び 【重さ遊び】 ・はかりに身の回りにあるものを置いて、ちょうど10g、50g、100gになるように物を置いて遊ぶ。				
⑥	自由遊び 課題遊び 【体操遊び】 ・音楽に合わせて、みんなで一緒に体を動かして遊ぶ。				
⑦ 本時	自由遊び 課題遊び 【ボール転がし遊び】 ・ボール転がし装置のゴールにつながる部分をみんなで作り、ボールを転がして遊ぶ。				



5 本時のねらい

NHKの番組を再現した遊びの場で活動することを通して、自ら他者と関わり、自分の思いを他者へ伝えようとしたりすることができる。
【学びに向かう力・人間性等】

6 本時の展開（7/7）

児童の学習活動	指導・援助		研究に関わって
1 動画を視聴し、これまでの学びを振り返るとともに、本時の見通しを持つ。 ・今日は、〇〇で遊びたい。 ・〇〇をしてみたい。 ・〇〇が楽しかったから今日もやりたいな。	A	B	1 【研究内容2】 ・自分たちの遊びを写真や動画で振り返り、今日の遊びへの意欲とイメージをもてるようにする。
2 自分の好きな遊びで活動する。（自由遊び） ★発見力の表出場面 ・こんな遊び方みつけたよ。 ・あの子のあれいいな。自分もまねしてみよう。 ・先生！見て見て、これ楽しいよ。	・どのような活動を行ってきたか写真や動画を使って振り返る。 ・創造的な遊びをしていた児童の姿を紹介する。 ・学習の見通しがもてるように黒板に本時の流れを位置づける。	・遊びに行く前にどんな遊びがしたいのかを問う。悩んでいる場合は、写真を見せて選択できるようにする。	2 【研究内容2】 ・児童が自分の好きな遊びに没頭できるように、多種多様な遊びの場を設ける。
3 動画を視聴し、装置を完成させる。（課題遊び） ・〇〇くん、ここにおいて。 ・先生、ここを手伝ってください。 ・うまくいくまでがんばってみよう。 ・みんなと遊ぶと楽しいし嬉しいな。	・意欲的に遊びに向かえるように課題遊びを教師が行っている動画で今日の課題遊びのイメージをもてるようにする。		2 【研究内容3】 【★発見力の表出に関わって】 ・選択肢を写真で提示し、自分で選択して遊びに向かえた姿を価値付ける。
4 課題遊びでの経験を活かし、自分の好きな遊びで活動する。（自由遊び） ★発見力の表出場面 ・さっきみんなでやったやつをまたやりたい。 ・〇〇くん、一緒に遊ぼう。 ・〇〇くん、見て見て！	・仲間にどう声をかけるとよいか具体的に教える。 ・仲間と関わっている姿を価値付ける。	・活動の輪に入っている姿を価値付ける。 ・集団での活動への参加意欲を高めるために役割を与え、役割をやり切れた姿を価値付ける。	3 【研究内容3】 【★発見力の表出に関わって】 ・一人一人に役割を与え、価値づけることで、集団の中での自分の役割と有用感を実感させる。 ・必然的に他者と関わることができるように、一つの遊びを全員で行う。
5 本時の学習を振り返る。 ・〇〇の遊びが楽しかった。 ・〇〇さんと〇〇したことが楽しかった。 ・次はこんな遊びをしてみたい。	・活動の様子を写真または動画で撮影しておき、振り返るときに提示する。	・どの遊びを誰と遊んで楽しかったのかを問う。 ・写真からどの遊びが楽しかったのか選択できるようにする。	【評価規準】 自ら他者と関わり、自分の思いを他者へ伝えようとする ことができる [主体的に学習に取り組む態度]

【公開Ⅰ】8年4組 作業学習 学習指導案

南舎1階 8年4組教室：炭竈 直希

1 単元名 「お客様の思いを見つけよう！～みんなに喜んでもらうために～」

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元では、作業学習で製作したナフキンやコースター等を教材として扱う。生徒たちは日頃から製品作りに意欲的に取り組み、自分なりのこだわりや工夫をもって活動している。しかし、製品について考える際には、自分たちの視点で捉えることが多く、製品を使用する人の立場から見つめ直す機会は少ない。そこで、実際に製品を使用したことがある校内の先生方や研究会参加者をお客様として位置付け、インタビュー活動を取り入れる。質問したり、相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりすること（国語）、聞いた意見を分類・整理し、表にまとめること（国語・数学）、製品のよさやお客様が大切にしていることについて考えること（作業学習）、相手の立場に立って考えたり自分の思いを表現したりすること（自立活動）など、各教科・領域等で学んだ力を活用することができる教材である。また、自分たちでは気付かなかった製品のよさや、お客様が大切にしていることに気づき、その学びを今後の製品作りに生かすことができると考える。

(2) 生徒について

A児は、時間を意識して行動し、任された仕事にも責任をもって取り組むことができる。また、自分の考えをもって積極的に発言する姿が見られる。一方で、自分の考えを優先してしまうことがあり、相手の立場や状況を踏まえて考えることに課題がある。本単元では、多様な立場の人の意見を比較する活動を通して、自分とは異なる考え方や価値観にも目を向け、それらを受け止めながら考えられるようにしたい。

B児は、学級や仲間の様子を目を向けながら、自分で役割を見付けて行動することができる。また、人との関わりを楽しみながら活動することができる。一方で、苦手なことに対しては避けたりごまかしたりすることがあり、自分の気持ちや考えを言葉で伝えることに課題がある。本単元では、お客様への質問や意見交流の場を通して、自分の気づきや考えを言葉で伝える経験を積ませたい。

これらの実態を踏まえ、本単元では、お客様へのインタビュー活動を通して、自分たちでは気付かなかった製品のよさや新たな視点を発見し、自分たちの製品を多面的に捉えられるようにしたい。

(3) 指導について

本単元では、校内の先生方や研究会参加者へのインタビュー活動を位置付ける。聞いた意見を「使いやすさ」「手触り」「見た目」「大きさ」などの視点ごとに整理・比較する活動を通して、自分たちでは気付かなかった製品のよさや、人によって製品を見るところ、大切にしていることが異なることを発見

できるようにする。また、得られた気づきを今後の製品作りに生かし、お客様を意識して活動しようとする姿につなげていきたい。

3 研究に関わって

(1) 研究内容1「発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫」について

本校では、発見力の視点を「自己」と「他者」に設定し、9年間を通して段階的に育成している。本単元では、「他者」の発見に重点を置き、自分たちの製品のよさや工夫を振り返った後、校内の先生方や研究会参加者の意見に触れる活動を位置付けた。多様な立場の人の考えに触れることで、自分たちでは気付かなかった製品のよさや、多様な考え方を発見できるように単元を構成した。

(2) 研究内容2「自走するための学習環境の工夫」について

本単元では、生徒が多様な人の意見から気づきを得られるよう、意見を比較したり共有したりできる学習環境を設定した。聞いた意見を表に整理して可視化することで、自分たちの考えとの共通点や相違点に気づきやすくする。また、異なる立場の人の意見を比較したり、仲間と気づきを共有したりする場を設けることで、自分たちでは気付かなかった製品のよさや、人によって大切にしていることが異なることを発見できるようにする。

(3) 研究内容3「自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫」について

本時では、意見を比較する活動を通して、製品のよさや人による見方の違いに気付けるようにする。また、実態に応じた問い掛けや価値付けを行い、気づきを深めることができるようにする。

4 本時の自走に必要な資質・能力である発見力に関わって

発見の動機類型シート	
表出する場面	振り返りの場面
表出する行動	お客様の意見を今後の作業に生かそうとしている姿
③お客様に喜んでもらうために、自分の設定した目標を達成したいと思っている。	③お客様に喜んでもらうために、仲間と協力して取り組みたいと思っている。
②お客様の意見を大切にしながら、よりよい製品を作りたいと思っている。	
①作業に一生懸命取り組みたいと思っている。	
④製品作りが楽しいと思っている。	

4 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①自分たちの製品のよさや工夫しているところについて理解することができる。 ②お客様へのインタビュー活動を通して、製品を見る視点（使いやすさ・デザイン・大きさなど）について知ることができる。 ③聞いた意見を整理し、適切に表にまとめることができる。	①インタビューで聞いた意見を比べたり、自分たちが気付いていなかったお客様の思いについて考えたりすることができる。 ②お客様の声を基に、これからの作業で大切にしたいことを考えたり、自分の言葉で伝えたりすることができる。	①自分たちの製品作りへの思いやお客様への思いを大切にしながら活動しようとする。 ②お客様の立場に立って考えながら作業に取り組もうとする。 ③お客様によって大切にしていることが違うことに気付き、これからの製品作りや作業に生かそうとする。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
①	私たちはどんな思いで製品を作っているのだろう。 自分たちの製品作りを振り返り、どんな思いをもって製品を作っているのか考えることができる。 ・自分たちの製品や作業を振り返り、頑張っていることや工夫していることを考える。 ・自分たちが大切にしていることと、お客様が大切にしていることは同じなのか知りたいという思いをもつ。	○これまでの作業学習を振り返りながら、自分たちの製品や製品作りへの思いについて考えようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度①] 発言の様子から
②・③	お客様は、どんなことを大切に製品を選んでいるのだろう。 お客様はどんなことを大切に製品を選んでいるのかを考え、その思いを知るための質問を考えることができる。 ・製品を実際に見ながら、お客様はどんな視点で製品を購入しているか考える。（使いやすさ・デザイン・大きさ等） ・お客様が大切にしていることを考える。その思いを知るための質問を考える。 ・質問内容を整理する。	○お客様が大切にしていることを考えたり、その思いを知るためにどのような質問をするとよいか考えたりしている。 [思考力・判断力・表現力①] 活動の様子・ワークシートから
④	お客様に分かりやすく質問をする準備をしよう。 お客様の思いを知るために、分かりやすく質問する練習に取り組むことができる。 ・インタビューの練習をする。 ・製品を使ってみてどんなところがよいのか、どんな質問をするとお客様の思いや願いが分かるかを考える。	○お客様の思いを知るために、進んでインタビューの練習に取り組んでいる。 [主体的に学習に取り組む態度①] 活動の様子・ワークシートから
⑤・⑥	先生たちはどんなことを大切に製品を選んでいるのだろう。 先生方へのインタビューを通して、製品を見る視点や大切にしていることを知ることができる。 ・作業製品を実際に使ったことがある先生や購入経験のある先生たちへのインタビューを通して、製品を見る視点や先生方の考え方を知ることができる。 ・意見をまとめておく。	○先生方へのインタビューを通して、製品を見る視点や考え方について知ることができる。 [知識・技能②] 活動の様子・ワークシートから
⑦	聞いたことを適切に表にまとめよう。 聞いた意見を視点ごとに整理し、適切に表にまとめることができる。 ・集めた意見を整理する。・意見を分類する。・表にまとめる。	○聞いた意見を整理し、見やすく表にまとめることができる。 [知識・技能③] ワークシートから
⑧ (本時)	自分たちが大切にしていることと、製品を使う人（お客様）が大切にしていることには、どんな同じところや違うところがあるだろうか。 実際に製品を使ったことがある先生方の意見と研究会参加者の意見を比べながら、人によって製品を見るところや大切にしていることが違うことに気付き、自分たちでは気付かなかった製品のよさを見つけることができる。 ・研究会参加者へのインタビューを通して、新たな気付きを得ることができる。・聞いた意見をこれまでの意見と比較する。	○研究会参加者の意見を、これまでに聞いた校内の先生方の意見と比べながら、人によって製品を見るところや大切にしていることが違うことに気付き、自分たちでは気付かなかった製品のよさをあげている。 [思考力・判断力・表現力①] 発言の様子から
⑨	お客様に喜んでもらうために、どんなことを考えながら作業するとよいのだろう。 お客様に喜んでもらうために、聞いた意見を意識しながら作業に取り組むことができる。 ・聞いた意見を意識して作業を行う。・各班で手触りや安全性、丈夫さなどを意識する。	○これまで聞いた意見を意識しながら、お客様のことを考えて作業に取り組もうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度①②] 活動の様子から
⑩	お客様の思いから分かったことを振り返ろう。 お客様の思いを振り返り、これからの製品作りで生かしたいことを考えることができる。 ・お客様によって大切にしていることが違うことを振り返る ・作業で意識したことを振り返る ・ これからの作業で大切にしたいことを考える	○お客様によって大切にしていることが違うことに気付き、これからの作業で生かしたいことを考えようとしている。 [思考力・判断力・表現力②] 発言の様子から

本時のねらい

実際に製品を使ったことがある先生方の意見と研究会参加者の意見を比べながら、人によって製品を見るところや大切にしていることが違うことに気付き、自分たちでは気付かなかった製品のよさを見つけることができる。

(思考力・判断力・表現力)

本時の展開（8/10）

生徒の学習活動	指導・援助		研究に関わって
1 自分たちが作業学習で大切にしてきたことをふり返る。 ・ナフキンを真っすぐにぬうことをがんばっている。 ・怪我をしないために、安全に活動できることが大切だな。 ・コースターの手触りにこだわってきたな。 〈課題〉自分たちが大切にしていることと、製品を使う人（お客様）が大切にしていることには、どんな同じところや違うところがあるだろうか。 2 研究会参加者に製品の紹介をし、インタビューをする。 ・ナフキンは、ほつれないように2回ミシンで縫っているよ。 ・コースターは、手にフィットするようにやすりがけをしているよ。 ・買うならどちらを買いますか。どうしてですか。 ・この製品を使いたいと思いますか。 3 聞いた意見を表に加え、整理し、これまでの意見と比較する。 ・使いやすそうという意見が多かった。 ・大きさにこだわる人もいるんだな。 ・手触りを大切にしている人が多いね。 ・校内の先生方と同じ意見を言っている人もいた。 ・見た目がよいところも製品のよさなんだな。 4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 ★発見力の表出場面 ・私は、見た目のよさも製品の大切な価値であることに気付いた。 ・私は、コースターの大きさを気にする人もいることを初めて知った。 ・次の作業では、（手触り・見た目・大きさなど）を意識して、お客様に喜んでもらえる製品づくりをしたい。	A	B	1. 【研究内容2】 これまで校内の先生方から聞いた意見を表に整理して提示し、本時に聞いた意見を書き加えながら比較できるようにすることで、「前にもあった意見」と「初めて聞いた意見」に気付けるようにする。また、自分たちでは気付かなかった製品のよさや、人によって製品を見る視点が異なることを発見できるようにする。 2. 【研究内容2】 製品について詳しく知らない研究会参加者の意見を聞く場を設けることで、自分たちでは気付かなかった製品の見方や価値に会えるようにする。また、「どうしてそう思ったのですか。」と理由まで尋ねるよう促すことで、製品を見る視点や考え方の違いに気付けるようにする。 3. 【研究内容3】 仲間や研究会参加者の意見を交流する場を設けることで、「そんな考え方もあるんだな。」「自分とは違う考え方もあるんだな。」と、多様な見方や考え方に気付けるようにする。また、本時の学びを振り返る活動を通して、お客様の立場を考えながら作業しようとする意欲につなげる。 4. 【★発見力の表出に関わって】 比較や対話の場面を設定し、研究会参加者や校内の先生方、仲間の意見と自分たちの考えを関連付けながら、自分たちでは気付かなかった製品のよさや課題、多様なニーズを発見できるようにする。 研究会参加者の意見を、これまでに聞いた校内の先生方の意見と比べながら、人によって製品を見るところや大切にしていることが違うことに気付き、自分たちでは気付かなかった製品のよさを見つけている。（思考・判断・表現）
	・校内の先生方の意見を思い出せるようにこれまでにまとめた表を提示する。 ・研究会参加者の意見をその場で表に加えながら整理することで、これまでの意見と比較しやすくする。 ・製品を選ぶ理由にも目を向けられるように「どうしてそう思ったのですか」と理由まで尋ねるよう促す。 ・「同じ意見」や「新しい意見」に気付きやすくするために、「使いやすさ」「手触り」「見た目」「大きさ」などの視点ごとに整理して表す。 ・自分にはなかった見方や考え方にも気付けるようにするために、仲間の気付きを共有する場を設ける。		
	・相手が大切にしていることを考えられるように、「その人は何を大切にしているのかな。」と問い返す。 ・多様な人の意見を比較して考えられるように、「校内の先生方と研究会参加者で違う考えはあったかな。」と考えを促す。 ・自分たちでは気付かなかった製品のよさを見付けられるように、「新しく気付いたことはあったかな。」と気付きを促す。		・安心して質問できるように、質問カードを用いて教師と一緒に質問内容を確認する。 ・自分の考えを伝えやすいように、「私は～と思った。」「なぜなら～だからです。」などの話型を提示する。 ・自分の考えを詳しく伝えられるように、「それはどうしてかな。」「もう少し詳しく教えて。」と問い掛ける。

【公開Ⅱ】9年4組 生活単元学習 学習指導案

南舎1階 9年4組教室：梅村 翔平

1 単元名 「住みやすい未来へ！ごみ減量マスターへの道」

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元では、岐阜市が令和8年度10月1日からごみ袋の有料化を行う事象を基に、「なぜ有料化をするのか」という意味を考える。持続可能な社会の担い手として、「私たちが将来、住みやすい環境で生活し続けるために、ごみの減量をしたい。」という願いをもち、ごみ処理場の見学・調査活動や、市役所の職員の講話を聞き減量の大切さを知ること、実際に分別活動などを行い、将来の生徒たちの生活に根差した学習を展開する。自分たちの住む地域のごみ収集が何曜日に行われているかを知ったり、分別方法を理解したりすること（家庭科）、私たちの出すごみがどのように処理されているのかを学ぶこと（社会科）、住みよい町づくりに関係する人々への調査活動（国語科）、ごみのリサイクル、リユース等の仕方（理科、美術科）など、私たちの生活に密接する内容を学習し、将来、生徒たちがこの地方自治体で生活しても適応できる基盤を養う単元としたいと考えている。

(2) 生徒について

男子2名、女子3名の5人学級である。義務教育課程の最終年を迎え、最高学年としての自覚をもって、教育活動に臨むことができている。5人の内、4人は岐阜市在住の生徒であり、家庭においても、今年度から始まったごみ袋有料化の影響を受ける。1人は他町在住であり、有料化について、今年度の4月から先行実施をしている。生徒の住んでいる地域によっても違いがあることから、市町村ごとの環境に関するルールがあることを理解していきたい。また、生徒の学校生活を観察していると、書くことを失敗した際に、次々と画用紙や紙を使おうとする姿や、紙ごみやビニル袋などの資源ごみ等も、何も考えず可燃ごみに捨ててしまう様子がある。本単元を通して分別やごみの減量に対する意識も養っていききたいと考える。

(3) 指導について

ごみ処理については自分の生活と密接に関わっている。将来、どの地域で生活するか決まっていな生徒たちであるので、自治体ごとにルールが変わる点や、分別方法にも違いがある点を十分に理解できるよう自分たちで調べる学習活動を展開したい。また、持続可能な社会の担い手として、これからの地球環境を美しくすることができるのは、自分たちだという意識を育んでいきたい。地域のごみ処理場や市役所などの公的機関にも携わる学習経験から、私たちの生活を手助けしてくれる行政の役割についても知り、将来の生徒たちの生活でも必ず関わっていく機関だということを理解できるよう、環境に関わる部署の紹介に留まらないようにしていく。

3 研究に関わって

(1) 研究内容1「発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫」について

学年や発達の段階に合わせて育みたい資質・能力や育みたい発見力を考え、カリキュラム作成を行っている。全学年に共通する単元や、各部、各課程で継続して取り組む単元でも、発達段階に応じて、目標や目指す姿は異なり、段階的に姿を高められるように教師の手立て等を整理している。

本単元については9年生という義務教育最終年の発達段階であり、自己の願いや思いをもち、表現することがある程度できる段階であると考えている。よって、9年生では「他者」の発見に重点を置いている。「他者」の発見では、仲間と自分との意見の違いはもちろんのこと、仲間の生活の様子から、住んでいる自治体の違いなどにも目を向け、「仲間」という他者の発見のみならず、社会で働く人々や仕組みの違いなど様々な他者に関わる発見をしていくことをねらっている。

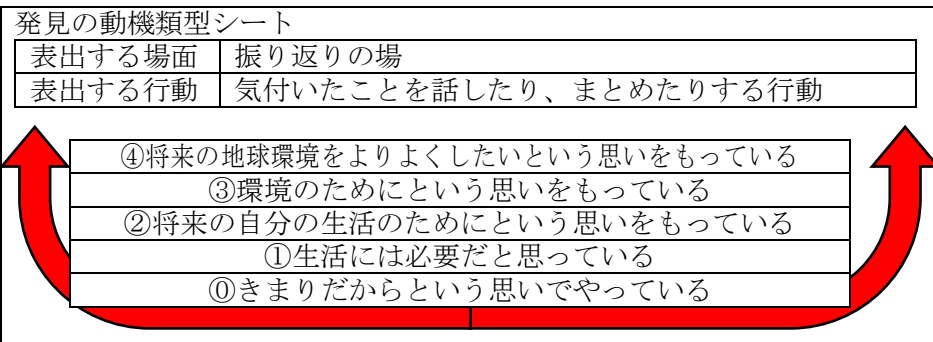
(2) 研究内容2「自走するための学習環境の工夫」について

単元導入では、自分が出すごみ、家庭で出すごみ、学校から出すごみなどの調査活動を行う。また、ごみ袋の有料化の意味やSDGsなどの語句を学習することで、単元内容を自分事にし、「環境をよりよくしたい」という切実感をもつことができるようにしたい。また、単元前半では、ごみ処理の仕方や分別に着目する。これは、自立して生活するために必要な力を身に付けることである。単元後半では、ごみの減量や3R（リユース、リデュース、リサイクル）に着目していくことで、よりよい地球環境について考え、学びを深めていく単元構成をしていく。

(3) 研究内容3「自走するための個々の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫」について

発見の動機類型シートを用いて、質の高い発見を促すことができるように、個々の学習状況に応じた手立てや価値付け等を行うようにする。

4 本時の自走に必要な資質・能力である発見力に関わって



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①ごみの種類や地域のごみ処理のきまりを理解したり、分別方法を理解したりすることができる。 ②東部クリーンセンターや市役所の見学・調査活動をワークシートに適切にまとめることができる。	①ごみの種類によって分別を判断したり、ごみの減量にはどのような方法がよいか考えたりすることができる。 ②環境問題とごみ処理がどのように関わっているかを考えることができる。	①環境問題について関心をもち、活動の見通しをもつことができる。 ②ごみの分別や減量について、粘り強く考えたり、意欲的に模擬活動に取り組んだりして、自分なりの実践策をもつことができる。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
①	<u>私たちが生活で使うごみ袋ってどんなものだろう？</u> ごみ袋の有料化や校務員の働きから、ごみ処理やごみ問題や環境問題に関心をもつことができる。 ・岐阜市のごみ袋有料化という事象を資料から知ったり、校務員さんの話を聞いたりする。	ごみ問題や環境問題に関心をもつことができる。 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>発言の様子から</u>
②	<u>私たちの生活でのごみはどのくらいあるの？</u> 自分や家庭で出るごみの量や学校で出るごみの量、ごみの種類などを理解することができる。 ・ごみ調査活動シートの分析を行い、疑問点を見出す。	ごみの種類やごみ出しのきまりについて理解している。 [知識・理解①] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑤③ ⑥④	<u>私たちが出したごみはどこへ行くの？</u> 東部クリーンセンターに行き、岐阜市のごみ処理の仕方について理解することができる。 ・東部クリーンセンターで見学・調査活動を行い、岐阜市のごみ処理についてまとめる。	処理場におけるごみ処理の方法について適切にインタビューしている。 [知識・技能②] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑦	<u>東部クリーンセンターの学びをまとめよう。</u> 東部クリーンセンターの見学・調査活動で学んだことをまとめ、さらに知りたいことについて考えることができる。 ・東部クリーンセンターのワークシートを基に、もっと知りたいことについて交流する。	地域のごみ処理の方法について理解している。 [知識・技能①] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑩⑧ ⑨	<u>市役所の方に環境問題について聞こう！</u> 市役所の環境施策課の方にインタビューし、岐阜市や岐阜県のごみの処理の状況を理解することができる。 ・市役所に行き、担当職員の方の話を聞いたり、インタビューしたりして、ワークシートにまとめる。	地域のごみ処理や環境問題について市役所の職員に適切にインタビューしている。 [知識・技能②] <u>活動の様子・ワークシート</u>
(本時) ⑪ ⑫	<u>ごみの分別をしよう！</u> 私たちにできるごみ処理として、きまりを守ってごみ出しができるよう、分別ができるようにする。 ・岐阜市や岐南町の分別ルールを資料から学ぶ。 ・分別の練習をする。	ごみの種類によって適切にごみの分別をすることができる。 [知識・技能①] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑬	<u>環境のためには分別だけでいいのだろうか？</u> 深刻な環境問題に対応するためには、3Rが大切であることを理解することができる。 ・市役所の方の話から、分別だけでは環境問題の解決にはならないことを想起し、減量について考える。	環境問題を解決するためには、分別の他にも3Rが必要だと考えている。 [思考・判断・表現②] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑭ ⑮	<u>ごみの減量の仕方にはどのようなことがあるのだろうか。</u> 環境問題を解決するために、3Rをどのようにすればできるのかを考えることができる。 ・ごみの減量やリサイクルの事例を調べる。 ・他校の学校生活で実践していることを調べる。 ・ごみ減量大作戦（実践策）を作る。	環境問題とごみ処理がどのように関わっているかを考え、ごみの減量にはどのような方法がよいか考えている。 [思考・判断・表現①②] <u>発言の様子・ワークシート</u>
⑯ ⑰ ⑱	<u>ごみ減量大作戦を実行しよう！</u> ごみ減量大作戦に向けて、考えた実践策の準備をしたり、ものづくりをしたりすることができる。 ・ごみ減量に向けたポスター作りをしたり、校内アナウンスの内容を考えたりする。 ・ごみ減量についての交流を他学級と行う。	ごみの分別や減量について、自分なりの実践策をもち、活動をしている。 [主体的に学習に取り組む態度②] <u>発言の様子・活動の様子</u>
⑲	<u>単元の学びを振り返ろう。</u> 単元で学んだことを振り返ることができる。 ・単元で学んだことを振り返り、これからの自分の生活で取り組んでいくことについて考える。	単元を振り返り、今後の生活に生かしたいことを考えている。 [主体的に学習に取り組む態度②] <u>発言の様子・ワークシート</u>

6 本時のねらい

たくさんのごみの種類から、ごみを分別する活動を通して、適切なごみ処理の仕方を身に付けることができる。また、ごみの分別以外にも環境問題を解決するための取り組みがたくさん行われていることを知り、さらなるごみの減量について理解することができる。 [知識・技能]

7 本時の展開（12/19）

生徒の学習活動	指導・援助					研究に関わって
1 今までの学習を想起する。 〈課題〉 いろいろな種類のごみを分別して、ごみ出しをしよう。 2 ごみを種類ごとに分別し、それぞれの袋に入れる。 ・袋はプラスチックごみだね。 ・紙は可燃ごみでよかったかな。 ・トレイはどうするのかな。 3 分別したごみをコンテナまでもっていく。 ・学校では、このコンテナにごみを運ぶのだな。 ・私の家では〇〇までごみ袋をもっていくのだったな。 4 トレイや衣類、牛乳パックなど、ごみとして出さずにリサイクル収集するものがあることを知る。 ・近くのスーパーでもトレイを回収しているのだな。 ・近くに段ボール回収のコンテナがあるな。 ・廃品回収に参加したことがあるな。 ・学校も段ボールや牛乳パックは別で集めているな。 5 本時の学習を振り返る。★発見力の表出場面 ・分別の方法は分かったぞ。 ・リサイクルについてもっと知りたいな。 ・ごみの減量について、分別の他にもいろいろな方法があるのだな。	A ・どのような活動を行ってきたか写真や掲示を使って振り返り、大切にしたいことを想起する。 ・分別ができるように分別表を黒板に示す。 ・「自分たちの生活ではどうか。」と尋ねることで、生活に根差した活動にする。 ・仲間とコミュニケーションを取り、考えている姿を価値付けることで、全員が考えをもちながら活動することができるようにする。	B ・活動のリーダーシップをとれるように、仲間を引っ張る発言や行動を価値付ける。 ・実生活とつなぐために、「自分の家庭だったらどうか。」と考える問いかけをする。	C ・教師との相談時間を設けたり、仲間に意見を聞きにくいように促したりする。 ・実生活とつなぐために、「自分の家庭だったらどうか。」と考える問いかけをする。	D ・教師との相談時間を設けたり、個別の支援カードを用意したりして、考えることができるようにする。 ・教師と一緒に取り組み、活動に参加できるようにする。	E ・仲間が発言したことを繰り返し話したり、聞く姿を価値付けたりする。 ・実生活とつなぐために、「自分の家庭だったらどうか。」と考える問いかけをする。	1 【研究内容2】 活動に見通しをもつことができるように、今までの活動の振り返りをしたり、教室掲示を利用して、インタビュー内容を想起したりできるようにする。 2 【研究内容3】 分別やコンテナ回収について、「岐阜市（岐南町）の分別はどうするのだった？」と声掛けをして、実生活とつなぐようにする。 3 【研究内容3】 コンテナ回収を終えた後に、活動の様子を写真等で振り返り、分別ができたことを価値付けする。 4 【研究内容3】 分別すること以外にも、ごみの減量についての取り組みがたくさんあることを動画や写真資料から考えることができるようにし、次への学びにつなぐことができるようにする。 5 【発見力の表出に関わって】 「減量するとみんなの生活のどのようなことにつながるのか。」と問い、環境問題の解消につながることを理解できるようにする。 【評価規準】 ごみの種類によって適切にごみの分別をすることができる。 [知識・技能]

【公開Ⅲ】 5・6年4組 生活単元学習 指導案

北舎1階 遊戯室：長島 ヒデキ

1 単元名 「4組秋祭りをひらこう」

2 指導の立場

(1) 単元について

5・6年4組は7月に行った「4組夏祭りをひらこう」の学習を通して、「自分達が準備した祭りで、前期課程4組のみんなを楽しませることができた」という達成感や充実感を味わった。振り返りの中で児童からは「またやりたい」という声が出てきた。そこで、年間を通して、「祭り」を自分達で企画・準備し、前期課程の仲間を誘って、一緒に楽しむという一連の学習の流れを繰り返すことができるようにした。前単元とのつながりをもたせながら、より一層、達成感や充実感を味わうことができたり、仲間と協力し合って、よりよいものを作り出すことができたりすることを目標に本単元を設定した。

本単元では、場面に合わせた話し方・聞き方（国語）、仲間を招待すること（国語）、プログラムの作成（国語）、長さ（算数）、地域の伝統行事（社会）、伝統的な音楽（音楽）、絵や立体に表すこと（図画工作）、ルールを決めること（特別活動）、他者理解（道徳）、協力（道徳）、コミュニケーションの取り方（自立活動）について扱う。

(2) 児童生徒について

5・6年4組は、5年男児3名、6年男児3名が在籍する知的障がい特別支援学級である。

5年男児のうち2名は、仲間との関わりに関して、とても意欲的な姿が見られる。遊びに誘ったり、一緒に活動したりすることが好きで、仲間に自分から声をかけることができる。しかし、相手の様子や状況を踏まえず、自分の思いだけで声をかけることがあるため、相手に嫌がられたり、取り合ってもらえなかったりすることがある。そのため、声を掛けてもよいタイミングや声の掛け方などを伝え、よりよい関わり方を身に付けることができるようにしたい。

5年男児1名と6年男児3名は ASD を併せもっており、自分の思いを表現したり、仲間の思いを汲み取ったりすることに苦しさがある。そのため、自分の思いの伝え方や、相手の思いの受け止め方を学び、学級の仲間との関わりを深めていきたい。

(3) 指導について

本単元を通して、学級の仲間、前期課程4組の仲間との関わりをより深めることができると考えている。企画・準備段階では、2人組や3人組での活動を意図的に仕組み、学級の仲間と関わり合いながら神輿の制作を行ったり、会場づくりを行ったりできるようにする。実際に秋祭りを実施する場面では、下級生とペアや、縦割りグループに分かれて遊び、楽しみながら4組の仲間と関わりをもつことができるようにする。

3 研究に関わって

(1) 研究内容1 「発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫」について

年間指導計画では、1～4年生で「自己」を発見する単元を中心にカリキュラムデザインを行っている。5・6年生からは、「他者」について発見する単元を増やし、仲間との関わりや仲間との協働について、必要性や価値を感じることができるようにすることをねらっている。そこで、本単元では「他者」の発見力を育む単元として設定した。

(2) 研究内容2 「自走するための学習環境の工夫」について

本単元では、児童の思いや願いを十分に引き出しながら、4組秋祭りという単元末の活動に向かっていきたい。そのために、小単元ごとに1時間ずつ、神輿を担いだり、様々な遊びをとことん遊んだり、自分達だけで4組秋祭りを模擬したり、という時間を設定している。そういった活動の中で生まれる児童からの「こうしてみたい。」「これが楽しい。」という思いや願いをもとに各活動を充実させる。そうして児童たちが自走しながら、よりよい4組秋祭りを作り上げていく単元としていく。

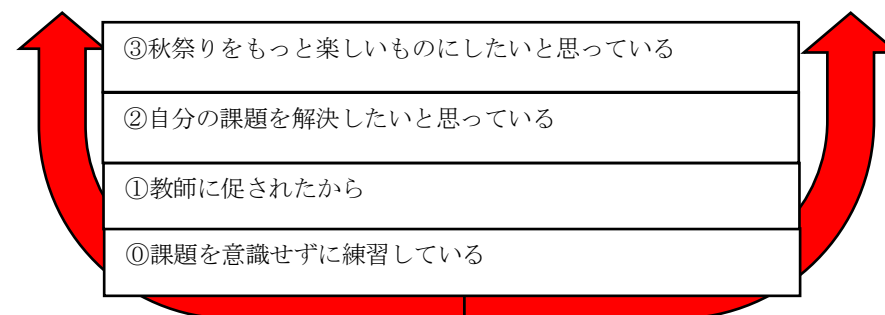
(3) 研究内容3 「自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫」について

本時では、4組秋祭り本番に向けて、模擬を行い、自分の役割や全体の流れを把握する。その後の振り返りの中で、うまく出来なかったことを認識したり、仲間からのアドバイスを受けてたりして、自分の課題に気付くことができるようにしたい。そのために、模擬の様子を動画で撮影し、振り返りの際に視聴できるようにする。そして、一人一人の課題を明確化して板書に位置付け、自ら課題解決に向けて練習に取り組む姿につなげたい。

4 本時の、自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

見取る場面	練習の場面
見取る行動	自分の課題解決のために練習している

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①様々な材料や道具を用いて、イメージした神輿を立体に表すことができる。	①下級生も含めて一緒に遊ぶことができる活動を考え、遊びを決めることができる。	①4組秋祭りを実施するまでの学習の見通しをもち、一つ一つの活動に意欲的に参加することができる。
②4組秋祭りを楽しむことができるようにするために、必要なものを理解し、その準備や設置をすることができる。	②4組秋祭りに誘うために、相手に聞こえる声の大きさや、伝わるジェスチャーの仕方を考え、意識しながら誘うことができる。	②学習の振り返りを通して、自分の頑張りやよさに気付くことができ、活動への充実感や達成感を味わいながら、次の学習への意欲をもつことができる。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
1～3	<u>学習の見通しをもとう。</u> 4組秋祭りへの意欲をもち、学習の見通しをもつことができる。 ・ICTを用いて秋祭りのイメージを掴む。 ・イラストや動画を用いながら、自分の思いを表現する。 ・自分の考えと仲間の考えから合意形成を図り、これからの活動内容を決定する。	4組秋祭りを行うことのイメージを掴み、秋祭り当日までの学習の見通しをもっている。 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>発言</u>
4～9	<u>おみこしをつくろう。</u> 様々な材料や用具を使って、神輿を制作することができる。 ・段ボールや牛乳パックなどを使って、神輿を制作する。 ・色画用紙や色テープ、カラーペンなどを用いて、神輿の飾り付けをする。	様々な材料を組み合わせながら、神輿の本体を形作ったり、部分や全体に着目しながら飾り付けをしたりしている。[知識・技能①] <u>発言、活動の様子</u>
10～14	<u>遊びの準備をしよう。</u> 前期課程4組の仲間がみんなで楽しく遊ぶことができる遊びを考え、決定できる。 ・遊びの候補を出し合い、学級の中で遊んでみる。 ・1年生でも楽しく遊ぶことができる遊びという視点で遊びを決める。 ・役割分担をして、遊び方やルールを伝えることができるように準備する。	前期課程4組の仲間のことも踏まえて、遊びを考え、決定している。[思考・判断・表現①] <u>発言、活動の様子</u>
15～18 (本時)	<u>会場の準備をしよう。</u> 4組秋祭りを楽しむことができるように、会場の準備をすることができる。 ・プログラム作りをする。 ・会場の飾り付けをする。 ・プログラムに沿って模擬をする。	4組秋祭りの会場に必要なものが分かり、準備している。[知識・技能②] <u>発言、活動の様子</u>
19～23	<u>4組秋祭りを楽しもう。</u> 4組の仲間を秋祭りに誘って、秋祭りを一緒に楽しむことができる。 ・4組秋祭りに、前期課程4組の仲間を誘うための練習をする。 ・前期課程4組それぞれの教室へ行き、秋祭りに誘う。 ・前期課程4組全員が集まって、4組秋祭りを開催する。	4組の仲間を秋祭りに誘うための言葉を考えたり、伝えるために声の大きさやジェスチャーに気を付けたりしている。[思考・判断・表現②] <u>発言</u>
24	<u>4組秋祭りの振り返りをしよう。</u> 4組秋祭りの振り返りをして、自分や仲間の頑張りや良さに気付くことができる。 ・これまでの学習を写真や動画をもとに振り返る。 ・写真や動画を見て、自分が頑張ったことや、楽しかったことを想起し、発表する。 ・仲間の頑張りやよさを伝える。	これまでの学習場面の中から、自分の頑張りを見つけ、活動への充実感や達成感を感じている。 [主体的に学習に取り組む態度②] <u>発言</u>

6 本時のねらい

4組秋祭りでの自分の役割が分かり、話し方に気を付けて話することができる。〔知識・技能〕

7 本時の展開（18/24）

児童の学習活動	指導・援助						研究に関わって
	A	B	C	D	E	F	
1 見通しをもつ 前時の活動の振り返りをし、本時の活動内容と活動の順序を確認する。 話し方に気を付けながら、自分の役割を練習しよう。	人前で話をするときの話し方について、「体の向き」「声の大きさ」の2点に気を付けて話をするとういことを視覚的に提示する。						2【研究内容1】 ・仲間が困っていたり、うまく出来なかったりしているときに、声を掛けたり、手助けしようとしたりする姿を価値付ける。
2 秋祭りの通し練習 プログラムに沿って、初めから通し練習をする。 ・〇〇さん、次出番だよ。 ・シールが貼ってあるところに立てばいいんだな。	・身振り・手振りを交えながら聞いている人達に向けて伝えようとしている姿を価値付ける。	・話し方の何に気を付けて話をするようするか確認してから話をさせる。	・落ち着いて話し出すことができるように声を掛ける。 ・プログラムを参照しながら、今何をする時間なのか確認する。	・プログラムを参照しながら、会の進行具合と一緒に確認する。 ・声の大きさに気を付けて話ができるように、視覚資料で現在の声の大きさを示す。	・仲間が困っているときにアドバイスをしたり、助けに入ったりしてもよいことを伝える。状況に合わせて自分から行動した姿を価値付ける。		3【研究内容2】 ・振り返りの中で、4組秋祭りをよりよくするために、「こうしたい」という意見が出てきた際には、丁寧に取り上げ、全体で協議する時間を設ける。
3 振り返り 通し練習の中でうまくできたこと、うまくできず練習が必要なことを確認する。 ・話すことを忘れてしまって、声が小さくなってしまった。 ・プログラムに貼ってある写真のおかげで、自分の出番がちゃんと分かった。 ・みんなの方を向いて話すことができるのもっとよかった。	・自分や仲間のよさ、頑張りに気付くことができるよう、練習中の動画を提示する。						4【★発見力の表出に関わって】 ・振り返りの場での自己内省や、仲間からの意見による気付きを通して、一人一人が自分の課題を把握することができるようにする。
4 グループ練習 ★発見力の表出場面 振り返りで見付けた課題を、グループで取り組み、本番への自信をもつ。	・練習することが分からない場合は、教師が内容を伝え、練習を補助する。	・グループ内での練習の順番を、事前に確認しておく。	・事前に、取り組む練習の内容を確認する。	・練習することが分からない場合は、教師が内容を伝え、練習を補助する。	・中心になって練習に取り組めるように、グループ内での練習の順番を確認する。	・事前に、取り組む練習の内容を確認する。	4【研究内容3】 ・振り返りの中で見出した個々の課題に、取り組むことができるよう声を掛けたり、一緒に取り組んだり、意欲的に取り組む姿を価値付けたりする。
							【評価規準】 プログラムを確認したり、仲間の声に応えたりしながら、自分の役割を果たし、話し方に気をつけながら話している。 [知識・技能]

【公開Ⅲ】 7年4組 生活単元学習 学習指導案

南舎1階 7年4組教室：平野 和俊

1 単元名 「秋野菜を使って調理をしよう」

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元では、「自分たちで育てた秋野菜を、自分たちで調理して食べたい」という願いを基に、料理を調べて決めたり、作り方の見通しをもったり、必要な食材を買い出したり、実際に調理して自分で食べたりする（また、身近な人に食べてもらう）活動を行う。単元終了後には、家庭にも協力してもらって、生徒自身が家族のために学校で学んだことに取り組む場を設ける。単元を通して、材料や分量が分かり適切に調理ができること（家庭）、買い出しの視点を理解して選び、金銭的なやりとりができること（数学・家庭）、スーパーマーケットの比較から産業について考えること（社会）、野菜の成長を確かめること（理科）仲間の話や教師の話をよく聞き、整理すること（国語）など、幅広い力を身に付けることをねらっている。夏野菜でも同様の活動を行っており、より深い学びができることを期待する。

(2) 生徒について

男子3名、女子2名の学級である。そのうち2名は前期課程から進級し、残りの3名は他の小学校から転学してきている。4月から生活をともし、様々な行事や活動を行う中で徐々に関係もほぐれ、それぞれが自分らしさを表出できるようになってきた。どの生徒も基本的な生活習慣は身に付いており、様々な活動において「自分のことは自分でやりきる」を大切に活動することができている。しかし、衣食住における「食」について、家庭での調理の経験は多くない。また、スーパーでの食材の買い出しに家族で行くことはあっても、どこにどんなものがあるか、それぞれの食材をどのような視点で買っているか、いくらくらいするのかなどを考える経験は少ない。「食材を買って作って食べる」という自分たちの生活に欠かせない学習を、自分たちで育てた秋野菜を使って取り組むことで、経験値を高めていきたい。

(3) 指導について

生徒の実態として、食料品の買い出しや調理の経験は多くない。普段、保護者はどのように買い出しをしたり調理をしたりしているのかを考え、自分の生活に生かそうとする気持ちを育みたい。そのために、夏野菜調理のときの経験を生かして、見通しをもって活動したり、話し合ったりできるように支援をする。また、夏野菜調理のときには、お金のことはあまり気にせずに必要なものを買って調理をしたが、本単元では、金銭感覚を身に付ける上でも「予算」を設定し、その中でどのように買い物をするのか実践できる力を育みたい。

3 研究に関わって

(1) 研究内容1 「発見力を育むためのカリキュラムデザインの工夫」について

「各教科等を合わせた指導」を通して願う姿に近づくために、どのように発見力を育むか示した指導計画を作成している。育みたい発見力の視点として「自己」と「他者」を設定して各単元に位置付けている。また、合わせた指導の年間の内容すべてではなく、「発見力」を育むことに特化した内容を整理している。畑で野菜を育てることは1年生から行い、調理実習も行っている。しかし、自分たちで一から計画を立て、適切に買い出しをし、調理もできるだけ自分の力で行うことは初めてである。後期課程で野菜を育てて作るということの付加価値を高めていく位置付けとなっている。一連の流れを経験する中で「自己」を深く見つめ、「自分でできた」という思いを抱いたり、生活の中でやってみたいという気持ちを高めたりできる生徒を育てていく。

(2) 研究内容2 「自走するための学習環境の工夫」について

単元の出口として、今回学んだ料理を家族にふるまうという出口を位置付ける。そのために、計画・買い出し・調理という一連の流れを単元として構成し、「自分でもできる」という思いを抱ける単元を仕組む。これまで、育てた野菜を家庭で調理してもらった経験は多いものの、自分で調理するという経験は少ないため、一つ一つ丁寧に指導をしていく。重点的に高めたい点として、買い出しの経験を高めるために、実際に店舗へ足を運び、必要な視点で買い出しができる場を設定する。さらには、保護者から個々の家庭での姿を教えてもらい、一人一人の支援につなげていく。

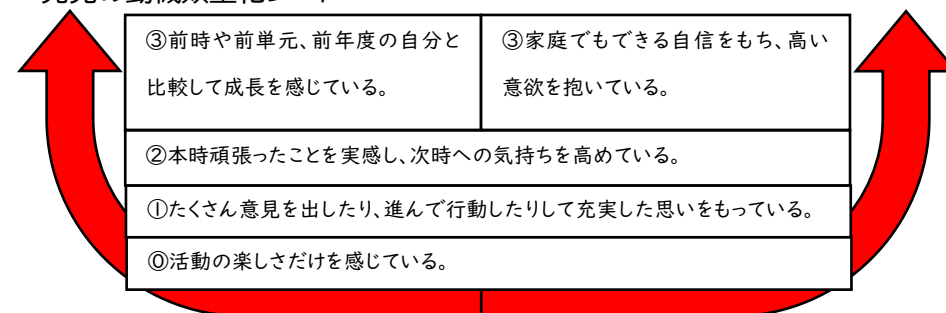
(3) 研究内容3 「自走するための個の状態や様子に合わせた指導・援助の工夫」について

本単元では、動機類型化シートを以下のように設定している。単元を通して自分の生活に立ち返り、「自分で調理ができるようになりたい」「自分で買い出しができるようになりたい」「家でもやってみよう」という思いが抱けるように、振り返りの視点を示したり、一人一人に合った問いかけをしたりする。

4 本時の自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

表出する場面	振り返りをする場面
表出する行動	自己の成長や生活に生かす内容を話したり書いたりする姿

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①学習の見通しをもち、「調理に必要な材料と分量」「必要な材料の買い方」「調理の仕方」を理解して活動に取り組むことができる。 ②店によって値段が違うなど、店の工夫や価格形成の工夫を理解することができる。	①食料品を買う上で必要な情報を集めたり、判断材料を考えたり、どのような視点で買うとよいか意見を伝えたりすることができる。 ②店舗による違いは、消費者の願いに結び付いていることを考えることができる。	①自分たちで育てた野菜から自然の恵みを感じたり、調理の大変さから日々食事を作ってくれる方に感謝をしたり、家族のために作ってみたいという気持ちを抱いたりすることができる。 ②今後の自分の消費生活に生かして買い物をしようという意欲を高めることができる。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
①	<u>秋野菜を使って何を作るか考えよう。</u> これまでの経験から願いをもち、自分たちで調理ができる秋野菜料理を調べたり相談したりして決めることができる。 ・家族のために作ってみたいという視点で料理を決める。 ・これまでの経験やタブレット端末で調べることを通して、秋野菜料理を決める。 ・今後の活動の見通しを考える。	どんな料理を作るか、これまでの経験から進んで意見を出している。 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>発言の様子</u>
② ③	<u>必要な材料と分量を整理し、調理の計画書を作ろう。</u> 調理の手順やポイント、安全上の注意などを自分なりに手順書としてまとめることができる。 ・レシピサイトを参考に、一人分の分量を計算したり、必要な材料を整理したりする。 ・ワークシートを参考にして手順やポイントをまとめる。 ・お互いの手順書を交流し、自分の手順書に必要な情報を付けたし、調理のイメージを膨らませる。	一人分の分量を求めたり、必要な材料を理解したりしている。[知識・技能①] 調理の見通しがもてる計画書を仲間と交流しながら作っている。[思考・判断・表現①] <u>活動の様子・ワークシート</u>
④ ⑤ ⑥	<u>何が、いくらするのか調べよう。</u> 食料品とその値段・量・産地などを比較し、スーパーによって特徴があることを理解することができる。 ・2つのスーパーマーケットに行き、必要な情報を集める。 ・交流し、なぜ店によって値段が違うのか考える。	視点に沿って食料品の情報を集めることができる。[知識・技能①] <u>活動の様子・ワークシート</u> 店によって値段が違うなど、工夫がされていることを理解することができる。[知識・技能②] <u>発言の様子</u>
⑦ (本時)	<u>買うときのポイントを整理し、どこで何を買うか決めよう。</u> 食料品を買うときには、「値段」「量」「品質」など、いくつもの視点を総合的に考えることを理解し、どういう視点でどの商品を買うのか意見を出し合い、決めることができる。 ・意見を伝え合い、総合的に判断して買う商品を決める。	どういう視点で買うか意見を出し、仲間と意見をすり合わせて決めることができる。 [思考・判断・表現②] <u>活動の様子・ワークシート</u>
⑧ ⑨	<u>必要な材料の買い出しをしよう。</u> スーパーマーケットへ行き、自分たちで購入することができる。 ・必要なものを店内から見つけ、必要な個数をかごに入れ、支払いをすることができる。	必要な物品を理解し、適切に買い物をしている。 [知識・技能①] <u>活動の様子</u>
⑩ ⑪ ⑫	<u>秋野菜料理を作ろう。</u> 計画書に沿って調理をし、秋野菜料理を自分で作ることができる。 ・安全に気を付けながら、自分の分を自分で調理する。 ・自分で作ったものを学年の先生や4組の先生にも食べてもらう。	安全や手順に気を付けて、自分の分を自分で調理し、おいしく食べている。 [知識・技能①] <u>活動の様子・出来上がった料理</u>
⑬	<u>秋野菜の調理実習を振り返ろう。</u> 単元を通して、自分ができたことや仲間ができたことを振り返り、今後の生活に生かしたいことを考えることができる。 ・自分の成長したところや仲間の成長したところを交流する。 ・今後に生かしたいことを交流する。 ・家庭での調理の見通しをもつ。	単元を振り返り、自分の成長や今後の生活に生かしたいことを考えている。 [主体的に学習に取り組む態度①②] <u>発言の様子</u>

6 本時のねらい

食料品を種類ごとに比較する活動を通して、食料品を買うときには、「値段」「量」「品質」など、いくつもの視点を総合的に考えることを理解し、どういう視点でどの商品を買うのか意見を出し合い、決めることができる。[思考・判断・表現]

7 本時の展開（7/13）

生徒の学習活動	指導・援助					研究に関わって
1 調べに行ったときの様子を振り返る。 〈課題〉商品を比べて、どこでどの商品を買うか決めよう。 2 決めるときの視点を確かめる。 - 家では、野菜は新鮮さを一番に考えているよ。 - できるだけ値段が安いものを買っているよ。 - 地元の食材を使うようにしているよ。 (・値段・量・品質・産地・賞味期限・成分・店までの距離・環境など) 3 商品を種類ごとに比較する。 〇〇の方が安いな。 - この商品は〇〇の方が安いけど、△△の方が量は多いね。 〇〇は岐阜県産と書いてあるよ。 - 使う量のことを考えると〇〇の方がよいかな。 4 どの商品をどこで買うか話し合う。 - 同じ商品でも〇〇の方が安いから〇〇で買おう。 - Bの店の方が安いけど、Aの方が近いからAで買おうよ。 - 予算が足りそうだから、少し高くても〇〇産ではなく△△産を買おうよ。 5 本時の学習を振り返る。★発見力の表出場面 - 夏野菜のときよりも、いろいろなことを考えて決められたな。 - 予算があると、「値段」ばかり気になって難しいな。 - 今度、今日学んだことを生かしてお家の人と買い物に行きたいな。	A	B	C	D	E	1・2【研究内容2】 - 考える材料を整理して考えがもてるように、自分たちの活動の振り返りをしたり、保護者の意見を示したりする。 3【研究内容2】 - お互いに意見を出したり聞いたりしやすいチーム分けをする。 - 話し合いがしやすく、意見を自分たちで書き込みやすい一覧表を示す。 4【研究内容2】 3での話し合いを教師側でそれぞれの意見を把握し、意図的に指名しながら話し合いを進める。 5【研究内容3】 【★発見力の表出に関わって】 - 振り返りを書く際に、本時の内容に関わること、仲間の意見から考えたこと、これからに生かしたいことなど、複数の視点を示す。 【評価規準】どのような視点で商品を買うか自分の意見を出し、仲間と意見をすり合わせて決めている。[思考・判断・表現]
	- どのような活動を行ってきたか写真を使って振り返る。 - 事前に、どういう視点でどのような食材を購入しているか各自が各家庭でリサーチしワークシートに記入しておく。その他の視点を教師から示す。 - 生徒自身に主体的に交流させながら、教師から必要に応じて示したり、補足説明したりする。 - 自分の意見と同じ（違う）かどうかを考えている姿を価値付ける。					
	値段だけを見るのではなく、量と総合的に考える割合の見方を確認する。		一つの視点だけでなく、複数の視点から総合的に考えるよう伝える。			
	- 意見を出しやすいように、適宜教師から指名する。 - 他の意見に同意する場合でも、自分の言葉で述べるように問い直す。	仲間の意見に対してどう思ったか適宜確認する。	意見を出しにくいときには自分の家での決め方を参考に伝える。	自分の意見だけでなく、仲間の意見に対して思ったことを述べるように促す。	仲間の発言内容が理解できているか適宜確認する。	
	次時への見通しをもつだけでなく、家庭での生活にも還元ができるよう、今日の学びを家庭で生かせることはないか問いかける。					